

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	太陽福祉会の理念、職員心得を念頭に置き実践している。会議や研修会前には理念の唱和を行い、全職員の意思統一を図っている。	理念、心得の唱和を日々行う事や、業務に向き合う姿勢から、地域密着への取り組みを感じる。	今後も理念の共有と、成果、課題を明確にし、実践に取り組む事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行以降、地域の方々との交流は控えていたが、今年度より少しずつ再開している。加えて、運営推進会議にて委員の方々との意見交換を行っている。	コロナ禍後に再開できている。地域の活動へ施設の方が参加されたり、地域の住民が施設の行事へ参加したり、防災避難訓練も合同で実施したりと、交流が図られている。	今後も継続して実施し、運営推進会議は意見交換の場にとどまらず、活性化、相互の信頼を高める場として活用して下さい。ご利用者全員の家族と意見交換を実施し、一層の理解と協力を求めます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症あんしんサポート相談窓口実施事業所として施設入口に看板を掲げ、いつでも相談にお越しいただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、ご家族、地域の方、市職員に報告、また、皆様から忌憚のないご意見をいただきサービスの質の向上に努めている。	計画通りに開催されており、報告や広報誌で意見交流しやすい雰囲気である。色々な活動の報告と情報交換の場として活用している。	会議の場での要望や意見があれば、生活の質の向上に役立ててほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時に、市職員から情報や指示など受けている。	運営推進会議の中での質問に対し丁寧に返答していただき、市の担当者と施設側の情報が共有できている。	市の指導や援助などがあれば、更に良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	太陽福祉会の虐待防止・身体拘束適正化委員会に属しており、会議に職員が出席している。また事業所会議にて委員会の報告や、虐待防止や身体拘束廃止に向けての取り組み等を職員で話し合い意識向上に努めている。	運営推進会議で委員会での内容や、日常の取り組みについて状況報告を受けている。職員は研修も受けており、ケアに対して共有・検討し業務にあたっている。	実践例を元に検証し、よりよいケアになるよう努めてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	太陽福祉会の虐待防止・身体拘束適正化委員会、リスクマネジメント委員会に属し、事故報告の検討やご利用者の心身、身体への注意喚起を怠らないように、事業所会議にて毎月話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで該当される方がなく、全体的に知識は不足している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約変更があった場合は、十分な時間と話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族代表の方から忌憚のないご意見をいただけており、職員会議にて周知している。また、太陽福祉会の苦情解決委員会を通して、苦情、要望も受け付けている。	運営推進会議の場で、どんな意見があり、どのように対処してきたのか、相互に意見を出し合い理解を深めている。家族、地域、市の意見を基に研修の機会に取り入れている事を評価したい。	今後も施設、と三者が一体となった実践の継続と、可能な範囲でご利用者の参加があれば良いと考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議で職員の意見を吸い上げ、ご利用者様への処遇や職員処遇に必要な事は業務に反映させている。	運営推進会議で左記内容について、その取り組みを伺い知ることが出来ます。	今後も継続を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	京都府福祉人材育成認証制度に則り、定期的な面談を実施しており職員処遇の向上に努めている。また、ワーク・ライフ・バランスの認定企業として職員の生活も大事にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	太陽福祉会でされるサービス向上研修会への参加、事業所会議にて勉強会を定期的に開催している。また、定期的な面談を行い職員一人ひとりの現状把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する高齢者部会の専門部会にて、市内のグループホームの管理者と意見交換を行う機会があり、情報発信や情報収集に努めている。職員間の交流機会は実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族と施設管理者、ケアマネとの面談を行っている。また、日々の生活での特変事項等をケース記録に残し、定期的なカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と施設管理者、ケアマネとの面談を行うことで、ご家族の信頼を得るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような生活を送っていく希望があるのかをお聞きする。必要であれば特養入所申し込みのお手伝いをさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、出来る事は可能な限り、ご利用者本人にお願いしている。職員も任せきりにせず適度な距離感を意識している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、日々のご様子を写真入りのお便りをお送りして報告している。また、病院受診は基本的にご家族に対応していただき、その他にも定期的に電話連絡、相談をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	社会的な状況を踏まえ、面会の勧め、外食や里帰りドライブ等を企画し、少人数での外出支援を行っている。	運営推進会議での報告を通じ、ご利用者の楽しめる活動への参加や、外出支援などへの積極的な取り組みが伺えます。日常生活への更なる創意工夫を期待します。	ご利用者の意向を取り入れながら、今後も途切れぬよう支援の継続を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わり合いを見つけ、話し相手が見つかるように職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気加療で退所された方のご家族様へは、可能な限り相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室環境はご本人の要望に沿って整えているが、聞き取れない方にはご家族に相談をしている。レクや外出等は無理強いをせず、ご本人の自己決定を尊重している。	形式的な取り組みとせず、常に、ご利用者、ご家族の意向を踏まえ、寄り添う対応を行っている事が、報告書の写真の様子から伺えます。	今後も継続を希望します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に過去の生活状況、入所前に担当していたケアマネジャーや、サービス利用されていた事業所等から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課を中心に、無理のないように自由に参加していただいている。また、特変等があればその旨、記録に残しご家族への報告を行い、必要に応じて受診につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が個々の介護状況と課題を報告し、居室担当が取りまとめ介護支援専門員とカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	職員全員でご利用者の支援が考えられており、職員間の連携もしっかり出来ている。	チームの共通理解の一層の邁進を希望します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケース記録から業務日誌に転記したり、朝夕の申し送りにて情報共有を行っている。その他にも職員間の連絡帳を用い、同様の事を行っており、見直しがある場合は介護支援専門員に相談を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診の代行を行っている。また、買い物の代行等も行っている。柔軟に外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関しては、散髪、買い物、外食などがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には主治医への受診票を作成し、身体状況の報告や担当の看護師からのコメントを提出している。主治医からの指示(返答)もいただいて記録に残している。	各ご利用者の細やかな体調変化を、主治医やご家族へ報告、相談しています。	今後も継続を希望します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化など、随時担当の看護師へ報告を行い指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院情報を作成し、病棟への情報提供を行っている。また、入院中の様子や治療の進捗等は地域医療連携室と連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに関しては、主治医、医務、ご家族とカンファレンスを行い施設で行えるケア内容をご家族に説明している。	ご利用者、ご家族の意向もしっかりと伺い対応している。	ご利用者が人生最後の刻を、安心して迎えられるような取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は全職員が受講済であるが、受講から時間が経っている職員も居り、全職員が実践力を身に付けているとは言いが切れない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災発生を想定した消防避難訓練を行っている。	毎年、消防署立ち合いのもと、消防訓練を実施している。	形式的、画一的にならずご利用者の安全を第一にした、訓練を希望します。火災以外の自然災害についても、シュミレーションの取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にもある「基本的人権の尊重」を念頭に置き、日々の業務にあたっている。言葉かけに関しては、介護中のスピーチロックを無くすよう職員間で声掛けを努めている。	個人を尊重する声掛けが実施出来ており、個々への対応についてもその様子から伺えます。スピーチロックについても事業所内で検討されている。	今後とも、ご利用者の人格と、尊厳について、全体での取り組みを継続を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、本人の思いをくみ取り、職員が代弁したり自己決定に導き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が付き添う事が出来ず、ご利用者の要望に対し待っていただく事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選択出来る方には、衣類を選んで着ていただいている。ご自身で選択が難しい方に関しては、職員が付き添い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に合わせ、可能な作業に関しては感染症対策を徹底した上で参加していただいている。	写真から伺える食事の様子は雰囲気が高く、食事中だけでなく、準備中においても良いと思います。外食や調理の機会もあり、食を通じた楽しみも確認できます。	可能な範囲で受け身ではなく、生きがいがいい豊かな生活を主体的に送れるよう、支援を継続していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量や体重は記録に残しており、定期受診の際に主治医へ報告を行い意見を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に付き添い、見守りや介助を行っている。夜間は、義歯管理を行い歯ブラシやコップ等の消毒など衛生面にも配慮している。また、毎月2回訪問歯科が入るので口腔内のトラブルは早期発見出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを全職員が把握する事で、定期的なトイレ誘導や声掛けを行えている。	職員間で排泄パターンが共有されており、個々の尊厳に配慮し適切な対応がなされている。	自分で自分の排泄が完結できることは、プライドを保持する上でも大変重要な事だと思います。引き続きの対応を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は多くの野菜摂取に努めている。また水分量も一日トータルで計測し、不足しているようなら水分摂取を促している。排便管理を行い、主治医の指示通りに下剤など服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良以外の理由でご利用者が入浴を拒否された場合、無理強いせずに入浴日の変更を行っている。また受診前日には入浴してもらうようにしている。時間帯は職員都合で決めている。	個々の状態に配慮し、入浴の検討、実施が行われている。	今後も事故の無いよう取り組んでいたきたい。ご利用者の希望もふまえ、夕食後の入浴が実施出来れば、より日常に近い環境ではないかとも考えます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間帯に居室に戻っていただけるようにしている。リネン交換は週1回行うが、汚染があれば都度リネン交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は全職員が把握するよう努めており、服薬内容を確認できるように冊子にまとめている。また、在庫確認であったり、症状次第で主治医、薬局薬剤師、担当看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の手伝いなど、その方が家事を行いやすいように援助している。集団でのレクリエーションにはある程度の制限はあるが、その他の気分転換も可能な限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には園庭での散歩を行っている。その他にも、ドライブや外食、買い物の支援を行っている	ドライブや外食、地域活動への参加など外出機会が確保されており、ご利用者の楽しみになっている。	今後ご利用者の豊かな刺激となるよう継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は居られず、病院受診の際にご家族と一緒に買い物に行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からご希望があれば、ご家族に電話を掛けていただいている。またご家族から電話があれば、取り次ぎ会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に座れるようにソファや椅子を多く配置している。季節の花や壁飾りを飾る事で季節を感じてもらっている。また、共用スペースには観葉植物を多く配置しており“ぬくもり”を感じていただけるようにしている。	共用スペースで過ごされている皆様の様子からも居心地の良さを感じます。 施設内はきれいで、明るさとぬくもりを感じます。	施設内で、孤独にならないよう声掛けを希望し、穏やかな生活を期待します。ご利用者の使用頻度は少ないかもしれませんが、施設内に本棚の設置は無理なのでしょうか？
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや椅子、テーブルを多く配置しており独りで過ごされる方(職員が寄り添っている)や複数人で過ごされる方が居られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はご自宅からの持ち込みであり、可能な限りご自宅で過ごされていた雰囲気を作れるようにご家族と相談して配置を決めている。	居室には自宅からの持ち込み品があり、ご利用者の過ごしやすい環境になっていると感じます。	引き続き、本人の要望を取り入れていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な「トイレ」「風呂場」などは分りやすいように表記してある。日付や時間が分りやすいように共有スペースには時計やカレンダーを設置している。		